

# ほっかいどう NIE・通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内  
☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

私は、二十数年前、高学年を担任した時、朝の会で新聞を持ち込み、毎日「ニュース交流」を実践したことがあります。子どもにとって新聞は身近な存在ではあるが、読む記録

新聞は教材の宝庫である。学校では、新聞記事はもとより、新聞づくり、作文の投稿等、多様な方法で新聞を活用している。

北見市豊地小校長 工藤 仁志

## 「実践の引き出し」増やして

もできるようになつた。毎日わずかの時間であつても「継続は力なり」を実感した。

社会科の学習でも、新聞記事を授業の導入場面で活用したり、単元のまとめとして「歴史新聞づくり」の実践は、この実践は、新聞を授

し、準備し、実践上の創意工夫をする等、高い指導力をめぐす必要がある。つまり「実践の引き出し」をたくさん持つことである。

また、記事の活用だけではなく、作文の投稿も子どもの表現意欲を喚起する新たな学習

事は、極めて限られている実態があつた。子ども達は、当初、私の解説を聞くだけであつたが、見出しに目を通すようになり、関心のある記事を積極的に読み出しました。意見交換

業に取り入れるきっかけとなつた。私自身も読者・教師という二つの視点で新聞を読む習慣ができ始めた。

今、「教師力」の向上が求められている。教師は、同じ單元でも複数の授業展開を構想

た作文の良さを学ぶことはもとより、新聞への掲載は、子どもにとって大きな励みとなる。どう実践に生かせるかという教師の眼で新聞を丹念に読むことも、「実践の引き出し」をより豊かにする原動力となる。

NIEの実践報告書を読むと、多くの教科や領域で新聞を活用した実践事例が紹介され、教師の熱い思いが伝わってく

る。教師の情熱と知恵こそが、教育活動の質を向上させる原点である。教師が今後もNIE活動の一翼を担い、たくさんの「引き出し」を持つこと

は、なんとなく高い壁があるが、NIE活動ではそれを飛び越え双方が手を結ぶ」など、小中高校など主管(?)が7月26、27の両日、岡山市で開かれた。全国の教育、新聞関係者ら約850人が参加、「学びあい 世界を広げるNIE」をスローガンに、小中高校間や学校・新聞社間での連携を強化したNIEの取り組みなどについて活発に意見を交わした。

## 見出し活用・授業に関心

に、高校生を含む5人のパネリストがNIEの課題などについて意見を述べた。

席上「教育界では小中高が連携する機会がほとんどないが、NIEを通じて互いの取り組みを知り協力し合うことが出来ます」と、学校と新聞社の間に



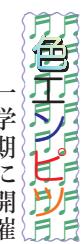
「NIEの魅力再発見」をテーマに討議した第12回NIE全国大会パネルディスカッション

▼7月25日石狩教育局主催の教員10年研修会では、授業力と高めるための関心を集められた。授業は、見出しから筆者之意図を読み取る推察力や見出しの表現力を養うのが目的。参加者たちに「見出しが文をきちんと読んでもわかる力がつく」と評価されていた。

## 新聞で「考える力」を

一学期に開催した釧路セミナーは、大学生も協議に参加。子供たちがもつとコミュニケーションを取り合いNIEの質を高めていくことを望む発言が相次いだ。

2日目の27日は小中高校ごとに6分科会が設置され、新聞を使った公開授業や参加教員が生徒に「新聞の見出しで表現力を高める」が参加者たちの関心を集めた。授業は、見出しから筆者之意図を読み取る推察力や見出しの表現力を養うのが目的。参加者たちに「見出しが文をきちんと読んでもわかる力がつく」と評価されていた。





# 環境テーマ 全生徒発表



北海道NIE研究会主催の夏季研修会では、会長の日下部憲一・札幌宮中の森中校長のあいさつに続き、事務局長の豊島義

実践発表では、札幌前田中央小の奥野真弓教諭が、5、6年の広報委員会の活動で、新聞記事をスクラップして画用紙に張り、校内に掲示する取り組みを発表した。

本年度の第1回NIE実践交流会「夏季研修会」と北海道一大阪NIE実践交流会が8月10日札幌コンベンションセンターで開かれた。大阪の教員ら100人を含む約100人が参加した。

明・札幌羊丘中教頭が第12回NIE全国大会の概要を報告。道南支部長の深沢昌明・函館神山小教諭が活動10年を迎えた同支部の取り組みについて

## 道 大阪の教員がNIE交流

“取材”で情報発信体験  
教育課程に位置付けを

授業は7月中旬の3年のクラスで、生徒40人。宗像教諭は、家庭科の「消費と環境」の単元の中で、新聞記事を使い、身の回りの環境問題を取り上げ、生徒たちに感想や意見をまとめさせている。

この日の授業は、前週の授業で生徒一人一人が関心のある環境問題を扱った新聞記事を切り抜き、張つておい

関心を持った環境問題の記事について生徒が一人ずつ発表＝北辰中で

たワーレクシートに、問題点や要約、感想を書き加えた。その後、くじ引きで発表者を順番に指名しながら、一人ずつ黒板の前で、関心を持つ記事の要約や感想を発表した。

互いに評価し意見交換

NIE実践校3年目の室蘭北辰中では、子供たちの視野を広げ、表現する力を育てるために、本年度も数人の先生たちが各教科で新聞を活用している。その中のひとつ、家庭科での宗像美貴子教諭の新聞活用の事例をリポートする。

## 実践校 リポート

くじ引きで指名「楽しく」

をうかがわせた。  
この日は時間切れで11人しか発表できなかつたため、授業は夏休み明けも続けられ、授業全員が要点や感想を発表して環境をテーマに4時間の授業を行つた。

供されている新聞は毎日、玄関と図書室前の閲覧机に置かれ、生徒たちが自由に目を通してやうにしている。

宗教教諭は「発表をくじ引きにしたのは、出席簿順だと次の発表者がわかつてしまい、学習効果が薄れる。生徒たちの希望もあり、楽しく学ぶ方法を考えた」と話している。

合えばよいかを考えさせて  
いる」と報告した。

中 山崎健太郎教諭▽留  
辺 藥 高 手束正紀教諭

▼網走市白鳥台小 菅原  
巧教諭▼北見市西小 山  
下隆志教諭▼北見市小泉

問い合わせは同協議会事務局へ(☎011・210・5802)。

組む、次の4教諭が実践  
発表する。

2)で開かれる。北見、網走地方の小中高校で新聞を活用した授業に取り

に9月1日、北海道新聞北見  
時半から北海道新聞北見  
支社（北見市幸町1丁目）

9月  
15日

北見でセミナー

# 夏休み体験教室が人気



延べ300人参加

当社の「夏休み子ども新聞教室」は、備後本社（広島県福山市）で二年前から実施していくが、広島本社で開いたのは初めて。会場は本社と近郊の廿日市市にある見学施設・中国新聞ちゅーピーパーク（広島制作センター）

# 中国新聞社

しま  
で

に紙面で参加者を募つたところ、子供たちの関心が高く、申し込みが殺到し、1週間ほどで応募を締め切ったほどだった。

「1日記者」の子どもたちは特製の「記者証」を首から下げ、本社で夕刊編集作業中の整理記者から説明を受けた

乳牛へカメラを向けて取材  
体験をする「1日記者」たち  
(広島県廿日市市のチチヤス牧場)

# 親子で新聞づくりも

回コンクール最優秀賞の子どもと家族の新聞づくり体験談などを聞いたあと、夕刊の印刷状況を見学、記事の書き方やレイアウトのコツを勉強した。

「きみも1日記者」と「親子ファミリー新聞づくり講座」(同三十人、三回)で、七月二十四日から八月十一日までの火曜から土曜日に実施した。夏休み前

り、外勤記者の体験談を聞いたりして交流。バスで二十九キロ離れた甘日市市のチチヤス牧場に行き、乳牛飼育の様子やヨーロプト工場を「取材」した。隣接の広島制作センターでは夕刊刷り出しを見学し、デジタルカメラの撮り方、記事の書き方などを学んだ。

# 子ども記者

# 取材に熱中

中国新聞社が今年初めて本社で開いた、「ちゅーピー夏休み子ども新聞教室」は、応募者が殺到するほどの人

氣だった。小中学生や保護者延べ三百人が家族ぐるみで新聞づくりの現場に触れ、新聞に親しんだ。

読みたい」「新聞記になりたい」などの想を寄せている。

新聞で表現力学ぶ

讀売  
ミナト

NHKアナ講演

川喜代美NIE企画  
ザイナーの4人。

読売新聞東京本社（北海道立文学館（札幌市中央区中島公園）が主催する「読売NIEセミナー」が7月15日、同立学館で開かれた。同セミナーは13回目で、東京都以外では初の開催。アナウンサーや中学校教諭らが「ニュース」や「活字」をキーワードに講演した。



会場に集まつた主婦や教職を目指す学生らは、メモを取つたり、記事についての感想を述べたりして、NIEの活動への理解を深めていた。  
（佐野裕次郎・読売新聞北海道支社編集部報道課長）

○…高校の国語教科書に使われている著名な作家の文章は、文学性に優れているが、個性が過ぎている場合が多く、文章の書き方を学ぶには難しいと思う。

○…新聞記事は明快な文章が多い上に、文脈や用語の難易度などがさまざま活用しやすいところか

ら、作文のモデルになりやすい。  
○…NIE全国大会で、記事を使つて「書く力」を身に付けるワー

クショップがあった。新聞コラムの構成、論の進め方を借りて文章を書く練習に、高校教師たちに混じって参加してみて、新人記者時代を思い出した。

○…当時、表現力を高めようと、このような練習を重ねた経験があり、発想、思考、表現の仕方に目を開かれた思いがある。授業で実施すると、作文が苦手と思っている生徒たちも、書くことに抵抗感がなくなっていくのではないかと思う。